

会議録

会議の名称	令和6年度 第6回 茨木市こども育成支援会議
開催日時	令和7年 3月19日(水) 午後6時00分～7時30分
開催場所	茨木市役所南館10階大会議室
出席委員	久保委員、五寶委員、柴田委員、下田平委員、樽井委員、 津村委員、中谷委員、西川委員、畑瀬委員、濱園委員、 福田委員、前田委員、三角委員、村上委員、山田委員、山本委員 (五十音順)
欠席委員	川西委員、古川委員、安原委員、森委員(五十音順)
事務局	福岡市長、山寄こども育成部長、東井こども政策課長、村上子育て支援課長、 浜本こども育成部副理事、中島発達支援課長、中路保育幼稚園総務課長、森保 育幼稚園事業課長、藪内学童保育課長、松山人権・男女相談課長、澤田福祉総 合相談課長、莫根生活福祉課長、奥野健康づくり課長、河原商工労政課長、竹 内子育て支援課参事、藤井子育て支援課参事、西川保育幼稚園総務課管理係 長、吉田こども政策課長代理兼政策係長、水田こども政策課職員、池こども政 策課職員
案件	会議案件 (1) 茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)《案》のパブリックコメント について (2) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認
配布資料	(資料1) 茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)パブリックコメント (資料2) 「茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)(案)」について提出さ れた意見等と市の考え方 (資料3) 茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)概要版 (資料4) 茨木市こども育成支援会議の所掌事務について (資料5) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員(確認)

発 言 者	発 言 内 容
司 会 （東井子ども 政策課長）	<p>茨木市子ども育成支援会議を開催いたします。</p> <p>まず、本日の委員の出欠状況について、ご報告いたします。本日 20 人の委員のうち 16 名の出席をいただいております。また、株式会社サーベイリサーチセンターが会議録作成のため、この会議に同席しております。</p> <p>それでは、茨木市子ども育成支援会議条例第 6 条第 1 項の規定により、会議の議事進行を福田会長にお願いいたします。</p>
福田会長	<p>本日の会議は半数以上の委員に出席していただいておりますので、子ども育成支援会議条例第 6 条第 2 項により、成立しています。なお、審議内容については、これまでどおり発言者の名前を付けて公表したいと考えていますが、この件についてご異議ございませんか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
福田会長	<p>それでは、会議録作成の関係上、どなたが発言されたかわかるように、「〇〇です」と発言者名をおっしゃってから発言をお願いします。</p> <p>また、今日の会議は今期の子ども育成支援会議の最後の会議を予定しています。会議の最後に各委員から 1 分程度これまでの振り返り、もしくはこれからを展望してコメントをいただきたいと考えています。</p> <p>それでは、会議案件（1）茨木市次世代育成支援行動計画（第 5 期）《案》のパブリックコメントについて、事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>事務局より説明いたします。配布している資料の確認をお願いします。（配布資料確認）</p> <p>まず、資料 1 をご覧ください。パブリックコメントの実施状況ですが、1 月 20 日から 2 月 14 日まで、市のホームページに掲載や図書館等の施設に設置しました。また、前回の会議でご意見をいただきました SNS も活用し、定期的にパブコメの呼びかけを行いました。最終的な結果ですが、ご意見やご要望、感想等、全部で 62 件いただいております。内訳については、計画全体へのご意見が 3 件、各施策について 54 件、誤字等のご指摘が 3 件、計画への感想等が 2 件となっています。</p> <p>それでは、それぞれのご意見等について説明します。資料 2 を併せてご覧ください。計画全体へのご意見は 3 件あります。計画別冊について、年齢の考え方、「子ども」表記の考え方ですが、2 番目と 3 番目の年齢と「子ども」表記については、これまでの会議でも説明してきた市の考え方を記載しています。計画の別冊については、資料 3 の概要版と子ども・若者支援版を作成します。</p> <p>次に、各施策へのご意見になります。生きづらさを抱えた子ども・若者に関する施策について 12 件のご意見等をいただきました。内容については、引きこもりに関するイベントやユースプラザ、子どもの居場所について、資料 2 の 4 番から 15 番の項目にあたります。内容は、個々の事業に関するご意見やご要望になります。次世代計画に各事業の詳細な内容は表記できないのですが、今後この計画に基づいて施策を実施するにあたり、いただいたご意見</p>

を踏まえながら事業の進捗を図ってまいりたいと思います。

次に、学校教育に関する施策について 19 件のご意見等をいただきました。概要としては、学校における教育の内容や考え方に関するものとなっています。教育における個々の分野の詳細な考え方や内容について、次世代育成支援計画の中で議論をすることは難しく、それらのご意見への回答としては別添 2 のとおり、本市の教育の考え方をお示しすることになりますが、議論できる場としては直接学校教育推進課にお持ちいただき、そこで議論をお願いできればと思います。

次に、社会参画に関するご意見です。別添 2 の項目 35 の内容になります。このご意見についても真摯に受け止め、今後の事業運営に活かしていきたいと考えています。

次に、学童保育、放課後の居場所についてのご意見です。項目 36～51 番の 16 件になります。内容は、学童保育室の環境や民間学童、青少年に関する相談について、個々の事業に対するご意見になっています。これらについても、次世代計画に詳細な内容は表記できませんが、現在、実施している事業を今後どうすることでより良くなるかを模索しながら、さまざまな運用を検討しています。今後この計画に基づいて施策を実施するにあたり、いただいたご意見を踏まえながら事業の進捗を図りたいと考えています。

次に、経済的支援についてのご意見です。別添 2 の項目 52、53 ですが、個々の事業として回答しています。

最後に、子育て支援についてのご意見です。外国人のこどもへの支援や、病児病後児保育の目標値について等の内容となっています。57 番の未熟児医療に関しては、計画に位置付けてほしいという内容でしたが、未熟児医療は現在実施しているのに計画に記載がなかったため、ご意見を受けて内容を追記し、今後の進捗状況についても精査できるようにしました。

次に、誤字・脱字等に関するご指摘については、修正しています。

次に、計画への感想等については、項目 61、62 のとおりになります。

これまでお伝えしたご意見等に関する市の回答の考え方、方向性のまとめをさせていただきます。ご意見等については、各事業担当課から回答しています。個々の事業内容に関するご意見・ご要望については、計画に詳細な内容まで反映することはできませんが、今後この計画に沿って毎年事業状況報告を取りまとめ、計画通りに事業を実施できているかどうか、また、時代の流れに合わせて対応できているかどうか、こども育成支援会議の場で皆様にご議論いただくこととなります。その際、今回いただきましたご意見を勘案しつつ、事業評価を実施していきたいと考えています。記載漏れ等のご指摘については、加筆・修正をしています。

最後に、パブリックコメントの回答については、21 日金曜日に市ホームページに掲載いたします。

パブリックコメントの内容については、以上です。

また、計画素案について、123 ページから資料編を追加しています。資料編

	<p>には、茨木市の世帯数をはじめ、女性の年齢別労働力率、保育所等の設置状況や障害児療育の状況、母子保健事業の状況等を整理した基礎データ、140ページからはこども・若者の意見聴取として、計画策定にあたりユースプラザを利用しているこども・若者に茨木市の取組や課題についてワークショップ等を通じて意見を聴取した内容を掲載しています。その他、条例や第5期計画の策定過程、委員名簿、最後に用語解説を掲載しています。</p>
福田会長	<p>加筆や修正が必要と思われる箇所、もしくは不明な点等、ご意見ご質問があればお受けします。意見に対する回答と中身がこれで良いか、また、本文の中には盛り込めないが各担当課には伝わっているとのことで、今後に反映される、もしくは具体的に追記されている項目もあるとのことでした。ご意見はありますか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
福田会長	<p>それでは、今後加筆・修正等は必要ないとのことですので、こども育成支援会議の計画案としたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
福田会長	<p>それでは、当日資料の答申案をご覧ください。茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）についての答申案です。令和6年12月20日付け第3429号で諮問がありました、茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）案について、別添のとおり答申いたします。第5期計画の審議においては、社会情勢やニーズ調査の結果、第4期計画で取り組んだ事業の評価結果を踏まえ10回にわたる審議会やパブリックコメント制度における幅広い市民等の意見を踏まえ、活発かつ慎重に議論を重ねて取りまとめたものです。今後こども・子育て・若者支援に係る市民ニーズ等を十分に考慮しながら、第6次茨木市総合計画のまちの将来像のうち、子育て・教育におけるこども保護者の嬉しいを育むまち、地域ぐるみでこどもの成長を感じるまち、こどもの好きを伸ばせるまちの実現に向け、計画が着実に推進されることを要望するとともに、計画策定にあたっては十分尊重されることを求めます。</p> <p>以上、このように準備いただいておりますが、よろしいでしょうか。</p>
一同	<p>異議なし</p>
福田会長	<p>それでは、こちらの答申書を茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）案につけて、茨木市長へ答申させていただきます。</p> <p>以上をもちまして、茨木市次世代育成支援行動計画（第5期）策定に関する全ての協議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>（会長から市長に答申）</p>
福岡市長	<p>ただいま答申を頂戴しました。誠にありがとうございました。会長の福田先生はじめ、皆さまにおかれましては、答申にあるとおり延べ10回お集まりいただき、たくさんご議論いただきました。第5期計画は次年度以降、5年間の計画となります。できて終わりにするのではなく、個別の事業も含めてしっかり実現していけるように、職員一同一丸となって実施していく所存で</p>

	<p>す。何より市役所だけでは計画を全うすることができない中、本日ご参加の皆さま、そして関係団体の皆さまのお力をお借りして、こども・若者が健やかに成長し、社会に羽ばたいていくまちになるよう、ご尽力願いたいと思います。令和5年に成立したこども基本法においては、こども・若者の意見を尊重していくことが示されています。市長をしていると、シニア世代のお声は大変よく耳にしますが、こども・若者の声を耳にする機会はあまりありません。市長としましても、毎年中学生とのタウンミーティング等もさせていただき、できる限り若者の意見の把握等に努めていますが、まだまだこれからのところもあります。引き続き皆さまからご意見、ご指導をいただければと思います。次年度以降5年間しっかり頑張っていきます。ありがとうございます。ありがとうございました。</p>
<p>福田会長</p>	<p>それでは、次に会議案件（2）特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認について、事務局から説明願います。</p>
<p>事務局（保育幼稚園総務課）</p>	<p>特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認の説明に入る前に、当会議の子ども・子育て支援法上の役割等について、簡単に説明します。</p> <p>資料4をご覧ください。茨木市こども育成支援会議は、子ども・子育て支援法第72条第1項に基づき、茨木市こども育成支援会議条例により設置されている会議となります。当会議の所掌事務としては、4つあります。1つ目と2つ目は、市町村が特定教育・保育施設、または特定地域型保育事業の確認を行い、利用定員を定める際に審議を行うこと、3つ目は市町村が市町村子ども・子育て支援事業計画を定め、または変更しようとする際に審議を行うこと、4つ目は市町村における子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し必要な事項および当該施策の実施状況を調査・審議することです。</p> <p>今回、私からは1つ目と2つ目の役割に関係し、令和6年度から令和7年度中に利用定員を定める、または変更しようとしている特定教育・保育施設、特定地域型保育事業の利用定員について説明します。</p> <p>資料5をご覧ください。ブロックごとと市域全体の令和6年4月と令和7年4月の利用定員及びその差を1号・2号・3号の認定別に、また、3号認定子どもについては、0歳児と1・2歳児別に表しています。まず、中央ブロックでは、1・2歳児は40人の増加となっており、ブロック合計で40人の増加となっています。東ブロックと西ブロックについては変更ございません。次に、南ブロックでは、0歳児が9人の増加、1・2歳児が36人の増加で、3号認定は合計45人の増加、2号認定で75人の増加、1号認定で35人の増加となっており、合計で155人の増加となっています。北ブロックは変更ございません。市域全体では0歳児が9人増加、1・2歳児が76人増加で、3号認定は合計85人増加、2号認定は75人増加、1号認定は35人増加となっており、合計195人の増加となっています。</p> <p>2ページからは1ページの内訳として施設別の令和6年4月と令和7年4月の定員をブロックごとに表したものです。定員に変更があった施設は赤字で表しています。中央ブロックは、事業所内保育事業てんのうナーサリーの新設</p>

	<p>により、3号認定の利用定員が増加するものです。</p> <p>3ページ目をご覧ください。東ブロックは、変更の予定はございません。</p> <p>4ページ目をご覧ください。西ブロックも、変更の予定はございません。</p> <p>5ページ目をご覧ください。南ブロックは、幼保連携型認定こども園天王つなぐこども園の新設により、1号・2号・3号すべての利用定員が増加するものです。</p> <p>6ページ目をご覧ください。北ブロックは、変更の予定はございません。</p>
福田会長	<p>会議案件（2）について、ご意見ご質問等があればお受けします。</p> <p>最初に説明があったように、法令により毎年確認していく必要があるものです。特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業が実際にどれだけ供給量があるのか、毎年確認していくプロセスだということです。</p> <p>特にご意見がないようなので、本日の会議は以上となります。</p> <p>最初に申し上げたとおり、この度の計画案の検討にあたり、委員の皆さまから一言ずつ感想をいただきたいと思います。本日は市長も来ていただいているので、皆さま方のご意見をしっかりと聞いていただけたと思います。</p>
畑瀬委員	<p>この会に参加させていただき、行政の方々の大変さ、広い視点と深いお考えの下、色々な施策を実行されていることがよくわかりました。希望館も微力ではありますが、ショートステイ等で茨木市と一緒に活動しています。今後も色々なところでお力添えをいただきながら事業を進めていきたいと思えます。またよろしく願いいたします。</p>
西川委員	<p>企業からの話として、障害児の看護休暇の話が出てきていますが、具体的な形が定められていないような気がしています。障害児を持つ社員等が自分の生活と家族を守るために休暇を取れる状況を作りたいと思っていますが、まだ周知されていません。そういう制度が前に進めるように、企業にも働きかけてもらえればと考えています。</p>
柴田委員	<p>これまで10回ほど会議に参加させていただきましたが、難しい資料ばかりで、正直今まで5年に1回のこのような計画があることも知りませんでした。これからはパブリックコメント等にも興味を持ち、茨木市民として参加していきたいと思いました。</p>
山本委員	<p>こういう会議に参加する機会を得て、保護者の一員として色々と勉強になりました。私には小学生のこどもがいて、体育館を使用する運動をしていますが、近年夏場の気温がどんどん上昇していることもあり、冷暖房を付けて環境を整えていただけたことは感謝しています。しかし、冷暖房費用を出せる団体と出せない団体があります。カードがないと使用できない等の利用方法や金額を再度見直してもらえると、体育館を利用する運動が茨木市内でもっと盛んに行われていくと考えています。よろしく願いします。</p>
津村委員	<p>色々な施策を考えてくださっていると会議に参加する度に思い、感謝の気持ちでいっぱいです。難しいことはわかりませんが、こどもが勉強するならおにクルに、中学校になればいのち・愛・ゆめセンターの並びにあるばーちスペースに行けるから楽しみだと言っていたり、こどもの保護者もこども達</p>

	<p>自身も中学校の給食が始まったので、不登校の子にも給食が美味しいからおいでよと声をかけたりすると聞いています。そういう子ども達の居場所や、生きづらさについても改善されていると改めて感じています。それが大人発信ではなく、子どもたち同士のつながりで広がっています。おにクルはすごくきれいで、私たちも行けば元気になるので、子どもたちも行きたがる気持ちがよくわかります。南中学校から葦原小学校までは一番南ですが、中心のおにクルまで出ようと思う気持ちも嬉しく、皆さまのおかげと思っています。ありがとうございました。</p>
樽井委員	<p>毎回ドキドキしながらこの席に座らせていただいていたので、今まで触れることがなかった細かい市政を知ることができ、大変勉強になりました。引き続き委員を続けることになりましたので、子育てサロンに来られる子育て世代の意見や、地域の若者世代の意見も会議でお伝えできればと思います。今後ともよろしく願いいたします。</p>
山田委員	<p>4月に園長に着任したばかりだったので、茨木市のこと自体を学ぶ場になったと感じています。大阪市内に住んでいるので、直接的に茨木市について1年間勉強させていただきました。認定子ども園では、やはり保育士不足に非常に苦しんでいます。子どもたちに入ってもらいたくても、なかなか夜7時まで預かる体制が取りにくいです。どこの園でもそういう話があり、この4月から先生が埋まらないと焦っている声をよく聞きます。茨木市と上手く連携が取れば良いと考えています。おにクルができたことは情報としては知っていましたが、子どもたちもすごく知っています。園に新しいおもちゃを買った時に、おにクルにあるものと同じで、それが子どもたちは嬉しかったようで、色々な話題の中にもおにクルが出てくるようになりました。そんな子どもたちも先日修了式を迎えて巣立っていったので、その子どもたちが明るい未来を迎えられるように今後施策を進めてほしいと思います。</p>
濱園委員	<p>先日、三島ブロックの総会があり、茨木市、高槻市、吹田市、摂津市、島本町の4市1町で集まりました。その時に、吹田市では部活を地域に移行していく方向に進んでいくと聞き、私は何年も前からそれをやりたくてずっとお願いしていたので、とても羨ましくて、茨木もそうなっていけば良いなと思いました。また、高槻市では子どもたちが運動場や体育館を利用するのは無料になっています。茨木は有料なので、そういうところも真似してほしいと思いました。うちは北部なので、もう少し北に行くと30分に1本しかバスがありません。子どもを連れて健診に行くのに不便なので、できれば健診場所まで車を出してもらおうとか、集える場所で健診ができれば助かるという話を聞いたので、ここで伝えておきます。</p>
久保委員	<p>仕事の関係で会議に参加できたのは数回ですが、自分の子どもが昨年まであけぼの学園に行っており、福祉等に今までまったく無関心でしたが、実際自分が携わることになり、意外にしっかりしているという感想で、茨木市は手厚いというのが第一印象でした。このような会議で皆様が真剣に考えてくださっているおかげで、その結果が結びついていると思い、感謝していま</p>

	<p>す。今はこどもも小学校に行っていますが、私も40年ほど前に茨木市の小学校に通っていました。その時に比べると、今のこどもたちは本当に恵まれていると思います。春休みが近いので、先日色々なものを学校から持って帰ってきましたが、その中の一つにタブレットがあり、昔は考えられなかったので、こどもに対して真剣に考えてくださっていると感じます。あけぼの学園に通わせていた印象としては、施設が非常に古いということがあります。市として予算が少ないことはわかりますが、かなり年季が入っていますので、そろそろ考えてあげても良いのではないかと思いました。このような会議に初めて参加させていただき、勉強になりました。ありがとうございました。</p>
村上委員	<p>今回、こどもを主人公としてウェルビーイングの提供を一番として考えていく中で、至極当たり前の話ですが、こどもの時期に経験したことや与えられた環境、感じた出来事は、こども自身のその後のキャリア設計に大きな影響を与えるものだと思っています。今回策定した答申内容は、誤解を恐れずに言えば、現時点でのベストな案だと思っています。今後、第5期計画の期間内に社会変化に合わせた軌道修正も必要になってくると思います。それを柔軟に軌道修正していくことも、市として検討いただきたいと思います。推進された結果、こどもたちが茨木市を好きになり、茨木市に推し活したくなるように好きになってもらうことで、それが家庭内で伝播して、次の世代に受け継がれ、茨木市に住んで良かったとなり、茨木市が注目を集めて中核市以外も含めた市町村のロールモデルになっていけるよう、市民の一人として貢献していきたいと思いました。</p>
中谷委員	<p>私の娘が、中央保育所に行っています。公立保育所でアンケートを実施していますが、よくあるご意見で、公立保育所はセキュリティ面で誰でも出入りできる場所があり、何かあっては怖いという意見があります。中央保育所は新しくされるとのことなので、セキュリティ面がしっかりされていくと良いと思います。おにクルができて、出産の時に色々なところに行かないといけない不便さが改善されたので、出産する人にとっては快適になったと思います。今後もそういう施設が充実していくと良いと思います。意見は言えず聞くばかりでしたが、参考になりました。ありがとうございました。</p>
下田平委員	<p>地域どこでもですが、各団体の後継者がいないことが悩みだと思います。民生委員も3年任期で今年が改選の年ですが、欠員が多くて後継者探しに頭を悩ませている今日この頃です。私は、民生児童委員の中の主任児童委員とあって、こどもを主にみる委員をしています。樽井委員、濱園委員も同じく主任児童委員です。校区によって違いはありますが、学校になかなか入り込めず、情報してもらえないという悩みがあります。新しく入られた方は、学校との関係に悩みます。また良い案があればお願いしたいと思います。先日、中学校と小学校の卒業式にも参加させていただきました。中学校では不登校でなかなか行けなかったけど、教室に入らなくて良いから支援室に来たら良いよと言ってもらえて、私は皆から良くしてもらって、生きてて良いんだと決意表明での話を聞いた時はすごく感動して、校長先生も涙を流されていました。小学校でも決意表明と</p>

	<p>合唱で先生達が号泣されていました。課題の多い学校ですが、先生一人だけではなく、全員が一人の子どもを見てくださっていることがすごく伝わりました。一緒に見守りさせていただき、良い場所にいさせてもらっていると感じています。私は長くさせてもらっていますが、以前であれば行政の関係機関にこちらから相談に行っていました。ここ数年はケース会議に行政の関係機関の方から参加していただいて、チームで地域の子どもたちを見守っていると感じています。</p>
<p>前田委員</p>	<p>会議を聞いていると、大きな計画なので市民の声をあげてもすぐに大きく変わらないのはここなんだと感じました。会議でもお話をさせていただきましたが、トランスジェンダーや不登校の問題を抱えている子どもたちがいます。子どもたちの一年はすごく大事で、中学3年間はある間に過ぎてしまいます。親御さんたちは一人で戦っているイメージが大きく、どこに相談すれば良いかわからないこともあります。もっと柔軟な動きをしてほしいです。多数ではなく少数なのでなかなか動けないこともあると思いますが、子どもたちの一年、一日、一時間、一分でも大切に考えていただきたいです。</p> <p>また、学校ごとに取組が違うことは、各小中学校の保護者と話さないとわかりません。自分の子どもが通っている学校がそうであれば、茨木市全体がそうだと親は勝手に思っていますが、他のお母さんたちに聞いてみると、まったく違うことが結構あります。学校に任されているところが大きいと感じますが、もう少し基本のベースを作って、学校に通う子どもたちの色に合わせたところは各学校に任せるようにしてほしいと感じています。</p> <p>あと、保育園の地域担当として保育士をしています。東太田に住んでいるので、初めて出産したお母さん達は自転車も乗れなかったり車もなかったりでおにクルまで来れない方もいるので、健診の巡回はしてもらえればと思います。</p> <p>また、転勤族が多いので、他府県や他市から茨木市は待機児童0と聞いて引っ越してこられますが、実際に来てみると保育園に入れないこともあります。つい最近おにクルについてテレビでも取り上げられていたし、子育てしやすいまちと思われているので、そこの期待を裏切らないためにも、他県・他市から見た時にわかりやすい情報を出してもらえればと思います。</p>
<p>五寶委員</p>	<p>難しい資料をどう見るのかもわからないままでしたが、皆さんがすごく活発に意見を述べられているのを聞き、とても勉強になりました。私自身の子育ては随分前に終わっていますが、市民活動センターで市民活動のコーディネートの仕事をしていて、おにクルに週に何日か通っています。確かに小さい子どもを連れてご家族はすごく楽しそうです。一方で、本当に何もなくて無邪気に楽しんでくれているか、仕事柄見してしまうところもあります。特に夜の時間帯は気になっています。この会議でも居場所という言葉が出てきていましたが、おにクルは新しくできた茨木市の居場所だと思っています。おにクルに限らず、公園や図書館等、茨木市に従来あった場所も居場所であったと思うし、今後もそうあってほしいと思っています。私たちは市民なので新しい建物をつくること</p>

	<p>はできませんが、元々ある公共の場所を子どもたちが安心して過ごせる場にするために、大人たちが見守る目を持つことで作ることができると感じた会議でした。</p>
三角委員	<p>委員の皆さま方、お疲れ様でした。この次世代育成支援行動計画（第5期）策定にあたり、ずっと会議をしてまいりました。仕事の関係もあり、私はどうしても保育に特化した意見を述べてきました。答申にもある、子育て・教育における子どもと保護者の嬉しいを育むまち、子どもの好きを伸ばせるまち、本当にこういうまちになると嬉しいと思います。</p> <p>現在、全国的に保育園・子ども園の業界では少子化問題をテーマに話し合われています。どんどん子どもが少なくなり、地方では廃園になる園も増えてきています。また、法人自体が合併・廃止の状況に追い込まれているところもあります。実際、大阪府内でも定員割れで定員を減らしているところも出てきています。そんな中で、まだ新しい園ができる茨木市は全国的にみてもすごく珍しいです。私も全国の会議に出席して茨木市の話をしました。まだ作るのかと言われることもあります。今子育てで良い面が出ている茨木市は、少子化が進んでいる中でも、この5年は大丈夫と計画にはありますが、もう目の前まで少子化がきていることを頭に置きながら、もっと柔軟に考えていく必要があるというご意見も出ていました。私も5年に1度ではなく、毎年見直しが必要だと思っています。本来であれば、もっと細かい項目があり、突っ込んだ議論も必要だと思います。私の立場であれば行政の方と接して議論を交わす場を持っていますが、他の団体の方はどこまでそういった場を持っているのかと思います。もっと話し合う場を作っていただきたいと思っています。</p> <p>また、子どもと保護者の嬉しいを育むまちを考えると、病院が必要だと思います。夜間保育で21時頃まで開けている園がありますが、その園長先生は、夜間保育をしていて子どもが怪我をした時に診察してくれる病院がないと言っていました。私の園も、19時まで開けていますが、お迎えギリギリで怪我をしてしまうこともあり、その時には病院の午後診察はほとんど終わってしまっています。そういうところもしっかり計画を立てて、計画通りに進めてほしいと思います。</p> <p>それから、先ほど幼稚園の先生もおっしゃっていましたが、職員が不足しています。学校の先生も少なくなっているように思います。何故かという、今配慮が必要な子がすごく増えてきています。配慮が必要な子どもたちを受け入れられる体制も、計画にはあまり載っていなかったように思います。もう少しそこを突っ込んでいければ良かったと思います。これができたから5年後にまたどうのではなく、毎年見直していくことをお願いしたいと思っています。</p>
福田会長	<p>委員の皆さま、ありがとうございました。ここまで一通りお話していただきましたが、何か言い忘れた方がいればこの機会ですのでお話いただければと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>ここ数年、子ども育成支援会議の会長をさせていただいておりますが、今期の委員の皆さまは真面目で大人しい方が多い印象です。この手の会議に初めて</p>

参画されると、出てくる資料に驚くことがあると思います。表現や数字がなかなか見えにくいところがあると思いますので、次引き継がれる際はわからないことはわからないと言って良いです。今回の事務局からの説明では、後半はかなりパワーポイントの資料を使っていたが多かったと思います。この取り組みは今期からで、以前は実施していなくて、口頭での説明だったので、なかなか残りにくいこともありました。できるだけわかりやすく説明するために、事務局で工夫を凝らしてくれていたと思います。優秀なスタッフが揃っていますので、こちらが物申すと対応してくれます。今後も遠慮なくというところだと思っています。

子育てしやすいまちは、やはり必要です。どうすればそれができていくのか、私も一生懸命考えながら参加していました。全然違う話になりますが、私は明日からインドに出張してきます。アジアパシフィック地域の大学間の交流をしており、学生派遣交換とか共同研究のパートナーを見つける大学機関のお見合い会のようなものがあり、それに行ってきます。去年同じような目的でアメリカを中心とする会議にも行ったことがあります。参加者の名前やメールアドレスが一覧になっていて、お見合いしたいところからどんどんアポイントのメールがきます。去年アメリカに行っていくつか届きましたが、「いくつか」でした。今回はアジアパシフィック地域に行く際には、メールが読みきれないくらい、色々な国からお声をたくさんいただき、全て答えられないくらいになっています。日本にいとんとんでもないと思うこともありますが、世界で見た時に日本はすごくポテンシャルがあり、可能性があり、皆が行ってみたい国、協力したい国という強みをまだまだ我々は持っていると思います。そういうことを子育てに引き付けて考えた時に、子どもにとって今自分が見えている世界がいかに魅力的なものなのか、もしくは今日、明日、明後日、4月に学年が上がった時に、より良い自分が待っているのではないかというコミュニティを、我々がどうすれば作っていけるのかが大きな課題になっていると思います。そういう中で、茨木市ではおにクルに象徴されるように、子育て支援に一生懸命取り組んでいることがわかりやすいまちになっています。実際に行くと、子どもにとって魅力的な場になっていることがよくわかります。

この計画を今後考えていくにあたり、いくつか課題があると思ってきました。今回の子どもの意見聴取は、ユースプラザを中心にワークショップ、ヒアリング調査を実施しています。こういう取組ができていることは、とても素晴らしいと思います。先ほど市長がおっしゃったように、なかなか若者の声が聞こえてこないということがありますが、振り返ってみると我々が子どもの意見を聞こうとしていたのだろうか。子どもの福祉を専門とする者からすると、大きな反省点があります。どうしても子どものためにと上から考えて押し付けてきた部分があったのではないかと思います。子ども家庭庁が音頭をとっているように、できるだけ子どもの意見を聴いて、それを施策に反映させていこうという動きが強くなっています。その流れをぜひ茨木市でも汲んでいただき、今後計画の評価をする際には、大人だけでなく、子どもの評価も聞くことに挑

戦してもらえれば良いと思います。

それから、パブリックコメントでも意見がありましたが、この会議で出た意見で大きいのは、やはり子育てを支える人材をどう確保していくのかだと思います。幼稚園・保育所の先生、学校の先生、そこで働く人達にとって魅力的な職場で、そこで子育てしていくことが楽しいと思える、そういう職場環境、雰囲気、まちのありようが必要だと思います。人は人によってしか育てることができませんので、そこへの働きかけが重要です。また、こどもは地域の中で育っていきますので、こどもが楽しく良い人に囲まれて生活していると思えるような地域社会、まちをどう作っていくのかが大きな課題になっていると思います。他市の取組等の情報を委員の皆さまも集めていただきながら、他でどんなことをやっているのか、それは茨木市ではできないのだろうかということを考えていく、もしくは事務局は他市が真似したくなる施策をお願いしたいと思います。この中には、他ではやってないけど茨木市では取り組んでいることが結構あります。先んじて取り組んでいくことをお願いしたいと思います。

先ほどトランスジェンダーの話もありましたが、例えば不登校や社会的養護の下にあるこども、障害を持つこども、難しい状況下で生活しているこどもたちがどう育っていくのか、そういうところを真っ先に考えていきたいと思っています。社会的養護の下にあるこどもの割合は、18歳以下の人口に比すると0.2%程度です。この0.2%のこどもたちがいかに育ちやすいまちを作っていくのかを考えることで、きっとすべてのこどもたちが育ちやすいまちを作ることができると思います。これは5年計画ですが、こどもたちはまさに今を生きています。こどもたちの今が幸せな雰囲気に包まれ、明日の夢をみられる社会を、まずはこの計画をベースにしながら作っていただきたい。それは、事務局だけでできるものではありません。我々委員も関係者の皆さまに働きかけながらこどもたちのために活動していくことが求められていると思います。

それでは、市長からコメントを頂戴できればと思います。

市長

改めて福田会長はじめ委員の皆さまには1年間お世話になり、ありがとうございました。

皆さまのご意見・ご要望を頂戴している中で、まだまだやらなければならないことが多いと再認識したところです。何度かおにクルという言葉が出てきました。人口減少社会に突入している中で、茨木市はたまたま増えています、いずれ減っていきます。それをどう受け止めれば良いのか、色々なものを閉じていくので良いのだろうか、あるいはどこまで戦い続けたら良いのか、非常に悩ましいところではあります。おにクルには、色々なコンセプトがあります。一つは子育て支援のさまざまなものを設けることにより、まちの真ん中でこどもたちやファミリーが目に入る。若者にこどもを持つ、家庭を持つことを身近に感じてもらい、ああいう家族像に自分もたどりつけたら良いと思ってもらいたいという思いを込めています。

先ほど会長からも話がありましたが、現状、全国で人手不足が起きています。茨木市には5つの大学があり、学生が2万人来ています。そのうちの7～8割

	<p>は市外から来ているという中で、なんとかこのまちに関わりを持ってもらい、このまちに住んでもらいたい。また、茨木市はベッドタウンのイメージがありますが、実際 9,000 の事業所があります。例えば、追手門学院大学で学んでいる学生の何割かは市内企業に就職しています。全国的に色々な課題がある中で、少なくとも茨木市においては、人の人生がこのまちでしっかり完結し、循環していくようなまちになれば良いという思いを抱きながら取り組んでいます。</p> <p>また、会議が難しいというご意見があったことは、大きなことだと思っています。特に次年度からは若者にもこの会議に入ってもらいながら、計画の進行等に取り組みたいと考えています。いかに難しくないように会議を運営できるか。聞いているばかりだったというご意見もありました。皆様が意見を述べやすい会議進行ができるよう、事務局と工夫しながらより良い計画、ないしは計画の実行になるように努めてまいりたいと考えています。</p> <p>いただいたご意見に個別に回答する時間はありませんが、しっかりすべてメモしています。また振り返りながら検討していきたいと思います。いずれにしましても、答申に至るまで 10 回の会議にお時間を割いてお越しいただいたと思います。皆さまからいただいた計画をしっかり実行してまいりたいと思います。</p>
<p>福田会長</p>	<p>それでは、これもちまして令和 6 年度第 6 回茨木市こども育成支援会議を終了とします。</p>